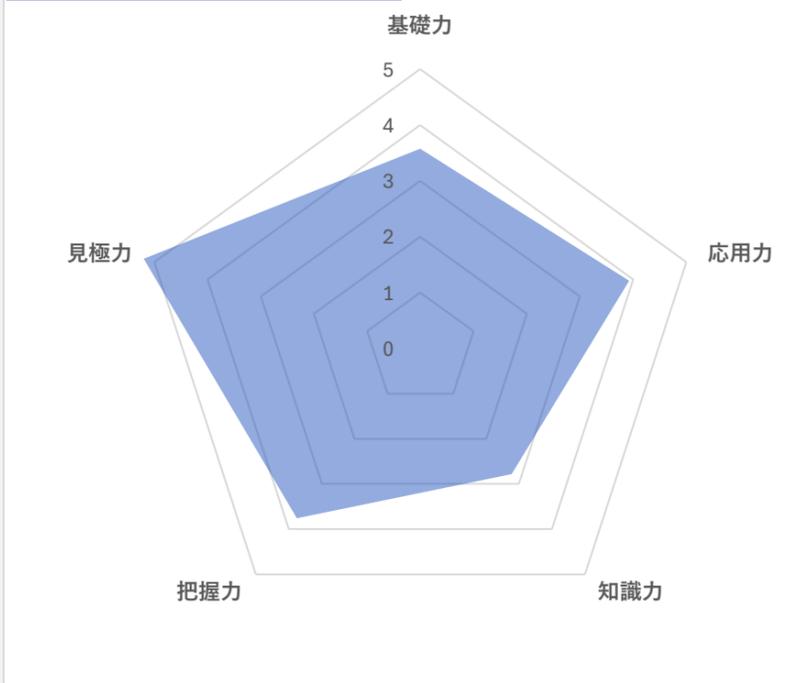


総合分析

試験区分	一般
------	----

制限時間	60分 (理科 2科120分)	大問数	全 5 問
------	-----------------	-----	-------

合格に要する能力 (5段階)

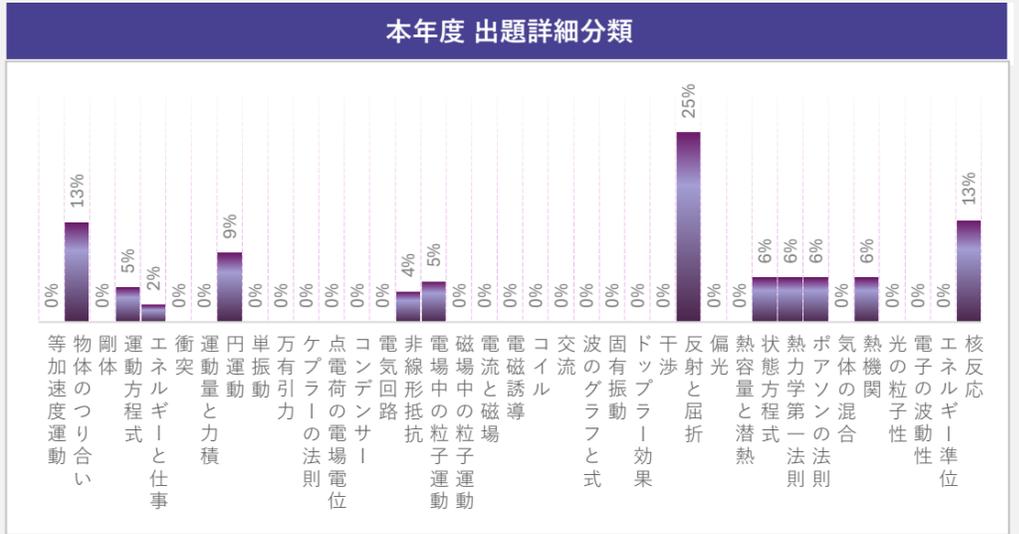


合格に要する能力 (5段階)		
基礎力	3.4	原理についての理解
応用力	3.7	演習経験による慣れ
知識力	2.6	用語を正確に覚えているか
把握力	3.6	臨機応変に状況を把握する力
見極力	5.0	解きやすい問題を選択する力

出題分野	
力学	29%
電磁気学	9%
波動	25%
熱力学	23%
原子物理	13%

本年度 解答形式	
論述	87%
穴埋め	

本年度出題テーマ一覧	
第 1 問	斜面上における円錐振り子の運動
第 2 問	電気抵抗モデルと半導体
第 3 問	ディーゼルサイクルの熱効率
第 4 問	半球面による屈折・平凸レンズ
第 5 問	太陽内部における核融合



特殊問題の有無	近似計算あり	グラフあり
正誤問題なし	理由記述あり	数値計算あり

特記事項 大半の設問で導出過程を書かなければならず、慣れていなければ時間がかかり厳しい。

総合評価

難度	3.7	最難を 5 とする問題自体の難度	やや難しい	一次合格に必要な正答率 (予想)	54%
分量	85分	完答に要する時間 (制限時間は60分)	多い	標準	

入試の特徴と対策

- ▶ 設問ごとにテーマが一貫しており、目標に向かう流れがある。速やかなテーマの把握が鍵となる。
- ▶ 入試問題としてありふれた題材が多い。単純に演習量で十分に対策できる。
- ▶ 概ね法則の運用に関する応用的な出題である。物理計算への慣れが必要となる。
- ▶ 同時に複数の事柄への理解を要する出題が多い。独力で解法を組み立てる力を要する。

入試から見る 大学が求める学生像

全体の分量が多く、大問ごとに分量と難度の差が大きいため、解きやすい問題を優先的に解くための見極力が必須である。要する知識水準が高い上に誘導が少なく、方針から自力で組み立てていく力が必要である。建学の精神にあるように、「幅広い知識と優れた技術を備え、問題や課題を解決するための研究能力を有する学生」が求められている。